

マダニによる感染症に注意しましょう！

近年マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の感染者が増加傾向です。これはマダニ媒介性の新しい感染症です。国内では2013年1月に海外渡航歴のない方が罹患した報告が初めてで、それ以降他にも確認されるようになり、大分県内で今年7月と9月にマダニに咬まれた高齢者の方が亡くなっています。これも「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」によるものです。今回はSFTSとマダニのお話です。

Q1.重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とはどのような病気？

2011年に中国において新しい感染症として報告されたSFTSウイルスによる感染症です。SFTSウイルスを有するダニに咬まれると感染します。主な症状は発熱と消化器症状（嘔吐・吐き気・下痢・腹痛）神経症状（頭痛・筋肉痛・意識障害・失語）、リンパ節腫脹、皮下出血・下血症状などがあり、肝臓の機能が低下したりします。時には死亡することもあります。

Q2.どのようにしてうつるの？

ウイルスを保有しているマダニに咬まれることによつてうつります。潜伏期間は6日～2週間です。

Q3.マダニはどんな所に生息しているの？

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。マダニは野山や民家の裏山、裏庭、畑、あぜ道などにも生息します。身近な所では、犬や猫などの動物にマダニがついていることがある為、飼い犬や飼い猫なども触ったあとは必ず手洗いをしましょう。

当院にもマダニに咬まれた赤ちゃんや子どもが受診されましたが、幸い感染症状はでませんでした。

Q4.マダニは家ダニとどうちがうの？

家ダニは、衣類や寝具に発生するヒョウヒダニや食品等に発生するコナダニなどで、家庭内に生息するダニで、大きさは0.2～0.4mm程度です。これによりアレルギー症状は出ますが、SFTSには感染しません。

それに比べてマダニ類は硬い外皮に覆われた比較的大型（吸血前で3～4mm、吸血後は1～2cm）のダニで、主に森林や草地などの屋外に生息しています。日本では主にフタトゲチマダニとタカサゴキウラマダニがSFTSに関与しています(写真参照)。

Q5.マダニに咬まれたらどうすればよい？

マダニ類の多くは、ヒトや動物にとりつくと皮膚にしっかりと咬みつつき、長時間(数日～10日間)吸血します。咬まれたことに気づかない場合もあります。無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、できるだけ医療機関で取ってもらってください。咬まれてから2週間の間に、発熱や嘔吐・下痢などの症状がでた場合も医療機関を受診してください。

Q6.マダニに咬まれない予防方法は？

農作業やレジャーなどで草むらなどマダニが多く生息する場所に入る場合は注意が必要です。

- 肌の露出を少なくする
長袖、長ズボン、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く
- 足を完全に覆う靴を着用する
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する
- 野外活動後は上着や体にマダニがついていないか確認し、入浴時には特に首、耳、脇の下、足の付け根、手首、ひざの裏など咬まれていないか確認してから体を洗い流すようにしましょう。

Q7.患者はどのくらい発生していますか？

高齢者を中心に年間60例ほど発生しています。2013年に集計開始後これまでに375例の報告があり、そのほとんどが西日本で中国・四国・九州地方での発生です。



フタトゲチマダニ



タカサゴキララマダニ